

授業科目名	人間の安全保障	単位数	2
担当教員名	内尾 太一	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>国際の平和と安全の維持、日本の安全保障と国際貢献を学び考えることで、学位授与の方針のうち特に「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につける」ことに寄与する。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1994年に国連開発計画によって初めて提唱された人間の安全保障（human security）は、国際社会における新たな時代のスタンダードとして普及しつつある。日本も、この考え方を外交の柱の一つに据え、積極的に推進してきた。</p> <p>では、それは、従来の「国家の安全保障」や、「人間開発」そして「人権」とはどのように異なるのだろうか。このコースでは、国内外を問わず、人々の生存、生活、尊厳を脅かす諸問題をより深く考察・分析するために、人間の安全保障という視点を習得することを目指す。</p>			
<p>授業の概要授業の概要</p> <p>今日の世界では、紛争、貧困、感染症、災害、環境破壊、テロリズム、対人地雷、難民問題、核・原子力、武器・薬物の拡散及びその他の組織犯罪など、人間の生活を脅かす恐怖と欠乏が、様々な具体的な形となって現れている。こうした脅威に取り組むために国際社会で提唱された比較的新しい考え方である人間の安全保障について基礎から学ぶ。</p> <p>また、このコースで扱う人間の安全保障の問題は、必ずしも発展途上国で起こるものばかりではない。日本社会においても、生活苦（貧困）、医療問題、過労、ストレス、自殺、無縁社会、犯罪、災害、感染症などの問題は、どれも我々の生活を脅かす恐怖や欠乏と直結している。こうした身近な社会問題も、人間の安全保障の議論のテーマとして取り上げていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：グローバルな現代と国際社会の諸問題</p> <p>第2回：国家の果たす役割とその限界</p> <p>第3回：人間の安全保障とは何か？</p> <p>第4回：東西冷戦の終結と非伝統的安全保障論の台頭</p> <p>第5回：Human Security Now（人間の安全保障委員会最終報告書）</p> <p>第6回：国家の安全保障、人権、人間開発との関わり</p> <p>第7回：欠乏からの自由、恐怖からの自由、尊厳をもって生きる自由</p> <p>第8回：保護とエンパワーメント</p> <p>第9回：日本の外交と人間の安全保障</p> <p>第10回：保護する責任</p> <p>第11回：東日本大震災と人間の安全保障</p> <p>第12回：生存、生活、尊厳への視座</p> <p>第13回：SDGs（Sustainable Development Goals）との関わり</p> <p>第14回：身近な社会問題へのアプローチ</p>			

第15回：人間の安全保障の課題と展望

定期試験

スクーリングでの学修内容

非伝統的安全保障論における重要テーマとして、人間の安全保障について理解を深める。スクーリングの前半では、東西冷戦が終結した1990年代を出発点に、その概念を構成する諸要素を丁寧に紐解いていく。後半では、日本の外交との関わりや、国内での人間の安全保障の危機にも目を向けていく。また、近年、国際社会で掲げられたばかりの持続可能な開発目標（SDGs）との関係を整理することで、人間の安全保障の今日的意義を見出すことを目指す。（主に、第4～13回の内容を含む。）

教科書

(1) 長有紀枝『入門 人間の安全保障：恐怖と欠乏からの自由を求めて 増補版』中央公論新社。

参考文献

(1) 国連広報センター（UNIC TOKYO）ビデオシリーズ『人間の安全保障の取り組み』（<https://www.youtube.com/playlist?list=PLNe0pDYSfDiuuzd4FEAWjvli8QD5jUzzF>）

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。